

明けましてめでとうございます。昨年は大変お世話になりました。

本年もどうぞよろしくお願いいたします！！

今回は、丹波篠山市立城東小学校、県立高等特別支援学校、県立神戸北高等学校の取組を紹介します(*^-^*)

★12月2日(木)丹波篠山市立城東小学校

北京オリンピック陸上競技日本代表 竹澤 健介 氏を講師としてお迎えした講演会とマラソングリニックが実施されました。「夢や目標の実現に向けて～オリンピック出場の経験を通して～」と題した講演会では、ご自身のこれまでの経験をもとに、夢を実現する方法として①達成できそうな目標を立てる②目標に向かって計画的に努力しよう③人よりも少しだけ努力するクセをつけるの3つのポイントを教えてくださいました。そして、「冬休みの宿題を計画的に少しずつやってみて。夢を叶える練習にしてほしい。」と呼びかけられていました。

最後には、「人との出会いを大切に夢に向かってどんどんチャレンジしてください。皆さんの夢が叶いますように。」とメッセージを送り講演会を締めくくられました。

マラソングリニックでは、走る時に大事な「正しい姿勢」だとアドバイスをくださり、走る姿勢の作り方や股関節のトレーニングの仕方を教わりました。すぐに効果が出るトレーニング直後に実際に走ってみると「すごい！速くなった！！」とあちこちから驚きの声が上がりました。竹澤さんと、一緒に来てくださった大阪経済大学の陸上部の選手と楽しそうに校庭を走り回る児童の皆さんでした♪



★12月7日(火)県立高等特別支援学校

東京2020パラリンピックシットینگバレーボール日本代表の柳 昂志 選手、谷河 勇綺 選手、菊池 智子 選手をお招きした体験会が行われました。まずは、選手への質問タイム。10名以上の生徒から手が上がり、初めて試合をした時の気持ちや試合中に心掛けていること、競技を始めたきっかけなどをお聞きしました。

その後、学年ごとに交代し、グループに分かれてパスやスパイク、試合の体験をしました。3分間の円陣パスでは、173回の大記録も！どのグループも声を出してボールを繋ぎ、とても盛り上がっていました♪

最後に行われた選手3名と先生方、代表生徒の試合では、きちんと整列した状態での挨拶から始まり、ポジションもローテーションをし、より実際の試合に近い形でシットینگバレーボールを体験できました。

講師の3名は「社会に出ると大変なこともあります。周りの人と沢山話して、頼って、これからの生活も頑張ってください。また、仕事をしながらでも自分が楽しいと思える趣味を見つけて、色々なことに挑戦してください。」とメッセージを送って体験会を締めくくられました。



★12月17日(金)県立神戸北高等学校

東京 2020 オリンピック女子ラグビーセブンズ日本代表の弘津 悠 選手をお招きし、「オリンピックを通して得たもの」と題した講演会が実施されました。

自分への自信がなく、日本代表の辞退を自分から申し入れた経験から「自分はなぜラグビーをするのか」と考えるようになったという弘津選手。「自分自身、そして支えてくれる周りの人のために頑張るんだ」と、そこから積み重ねた食事改革やトレーニングの結果つかみ取った初の日本代表選出は、自分が努力で変われると知った体験だったとお話されました。そうして出場したオリンピックで得たものとして、①弱みは弱みではない(他に自分にできること、自分が生きる場所がある)②結果よりも成長に目を向ける(人と比べたりせずに、自分自身の成長に目を向けると努力が楽しくなる)③辛い時はあえて笑ってみるの3つを教えてくださいました。そして、どんな結果であろうと応援してくれたチームを外れたメンバーや大会ボランティアへの感謝の気持ちを強く伝えられ、「苦しいことも沢山あったけれど、オリンピックはまた目指したい。目指す価値のある大会」と語られました。

講演会の最後には、「良好な人間関係が人を幸せにします。自分を支えてくれる周りの人々に感謝することを忘れないでほしい。」とメッセージを送られました。



★オリンピック・パラリンピックムーブメント展開事業終了のお知らせ★

平成 29 年から5年間にわたって実施してきました「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント展開事業」は、令和4年1月 31 日(月)をもって終了いたします。これまでご協力いただきました「オリンピック・パラリンピック教育推進校」及び関係者の皆様には、心より感謝申し上げます。

本事業を通して、夢に向かって努力することの尊さ、フェアプレーやチームワークの精神、多様性を認め誰もが活躍できる共生社会の重要性等を学んでいただきました。

今後は、オリンピック・パラリンピック教育を通した多様性への理解やボランティアマインド、障がい者理解等の取組を継続的に実施し、家庭や地域に広げるとともに、推進校以外の学校においても、国際パラリンピック委員会(IPC)公認教材『I'mPOSSIBLE(アイムポッシブル)』等を活用しながら、共生社会の形成につながる取組を進めていただければ幸いです。



大会オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会より

送付された東京 2020 教育プログラムに係る感謝状